

東京すくわくプログラム
高円寺りとりぱんぷきんず

令和7年度
絵本カタリスト はたらく車

テーマ はたらく車



設定理由

絵本の読み聞かせの際もはたらく車が出てくると、「○○車だよ」などと声に出したり指差しして教えてくれることが多く見られました。戸外活動でもはたらく車を見つけると、集中して見つめたりする場面もあり、興味関心があることが伺えました。そのため、じっくりと絵本の中に出てくるはたらく車と実物との見比べたりする体験を設けたいと考えました。



対象クラス

0～2歳児



スケジュール

- ・ はたらく車が出てくる絵本を繰り返し読み、子ども達の主体性や感性を育む
- ・ 絵本を持って戸外に活動をし、同じはたらく車と見比べる
- ・ それぞれの車がどんな場所で働いているかを知る。



準備物

はたらく車が出てくる絵本・絵カード

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命の尊重

量・図形・文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

はたらく車がいっぱい
出て来るからよく見てね。



K: しゃ!
T: クレーン車だね。



K: ショベルカーは何掘ってる?
T: バターを掘っているよ。

子どもたちの育ち

もともとはたらく車に強い関心があったが、「ショベルカーいたよ。」「なに運んでるんだらうね」など、名称を言うだけでなく、その車の役割や特徴にも関心を示すようになってきた。

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

道路のショベルカーは
土を掘っているね



K:パトカーはどこにいるの？
T:警察官が働いている警察署って
ところにいるんだよ

T:救急車は怪我や病気の人を病院
まで運ぶお仕事をしているんだよ
K:じゃあ病院で見れるかな？



子どもたちの育ち

働く車がどのような仕事をしているのかが分かるようになり、そこからどのような場所で働いているのかについて考える姿が見られるようになった。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識の芽生え

社旗生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命の尊重

量・図形・文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

病院の前で
救急車みつけた！



他の車はどこで働いている
のか、考えてみよう！



ショベルカーとダンプカーは
工事をやる車だから…
工事現場で働いているよ！

T:お仕事が終わった救急車は、
どこに帰るか知ってるかな？
K:消防署だよ！消防車もいるよね

子どもたちの育ち

それぞれの車がどのような場所で働いているかがわかようになり、仕事内容と仕事場所を一致させることが出来るようになった。また、散歩先で見つけた様々な車に興味を持ち、「あれはどんな車？」「どこに行くのかな？」など声も多く聞こえるようになった。

全体の振り返り

元々車に興味を持っている子どもが多く、散歩先でも車を見つけては強い興味を示している姿が多くみられていた為、絵本を用いてさらに関心が深まるように活動を展開していった。普段の生活の中で繰り返し読んで親しみを持っていた絵本を用いて戸外で見比べたことにより、子ども達もより興味関心を強く持って参加することが出来た。

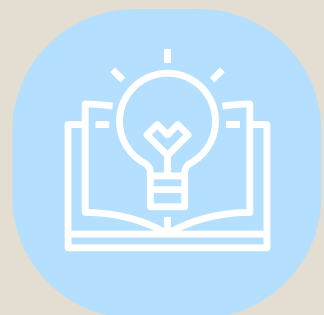
さらに、車自体への興味だけでなく、仕事内容やはたらく場所にも疑問を持ち、知識を深めることにもつながった。車の分類をする活動では、子ども同士が「これは違うよ」「こっちだよ」などと声をかけあう姿も多く見られ、子ども同士の主体的なコミュニケーションにもつながった。今後も車に関する活動を多く取り入れ、さらに興味が広がっていくようにしていきたい。また、子どもの声に耳を傾けながら、興味があることについて深堀をして、リアルタイムで興味関心を引き出せるような保育を展開していく。

東京すくわくプログラム
高円寺りとりぱんぷきんず

令和7年度

テーマ お話を作って劇にしてみよう

テーマ お話を作って劇にしてみよう



設定理由

子ども達に様々な絵本のストーリーを知らせる・深める機会を作っていきたいという思いから、このテーマに決めました。絵本に親しみながら、自分たちのオリジナルストーリーを考えていく楽しさを経験してもらいたいと活動を進めていきました。



対象クラス

5歳児



スケジュール

絵本の読み聞かせから話の内容を深める
絵本の話を組み合わせながら物語を創作していく
物語の登場人物になってみて、物語の世界に入り込む



準備物

- ・絵本（ももたろう、うらしまたろう、
いつつごうさぎとうみのほうせき）
- ・ホワイトボード ・ペン

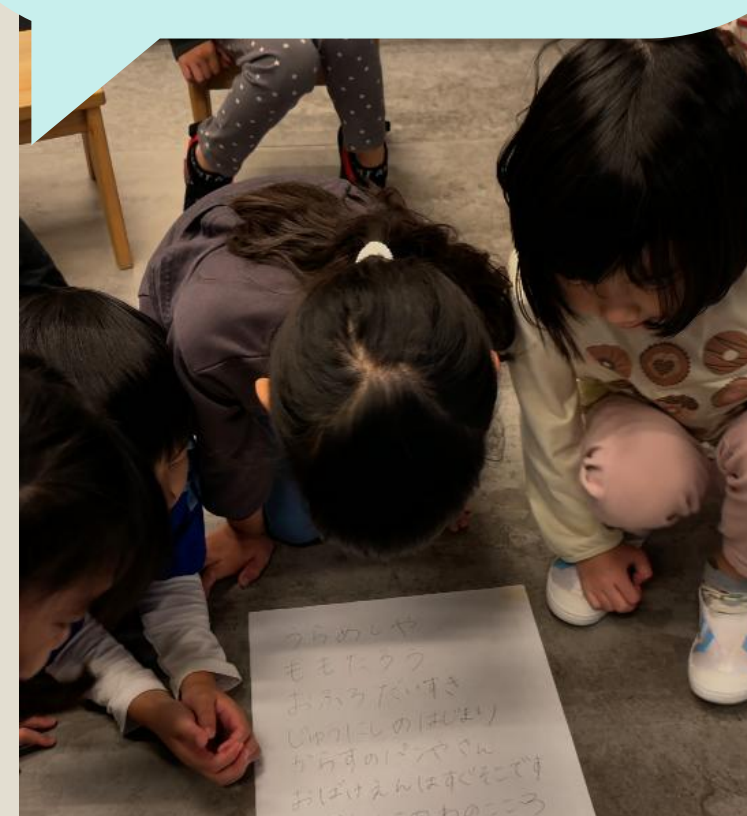
活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

この絵本見たことある～
ここの部分面白いよね



一緒に絵本を読んでみよう

どの絵本を使ってみる？



子どもたちの育ち

生活発表会で自分達の劇を作るため、絵本の読み聞かせをおこない、様々なストーリーがあることや違いなどを知らせた。また、アニメーションという絵本の活動をおこなっていくことで、絵本を読み込んだり、想像力を深めていった。今までも自分達で絵本を読んでいる姿はたくさんあったが、物語の内容により意識を向けて読み進める姿が見られた。そして、物語作りに使う絵本を子ども達と選んだ。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

ももたろうと
うらしまたろうが
出てくるの面白そう



T: ここのセリフもっと楽しく言っても
よさそう!
K: じゃあ、歌いながら言うのはどう?



劇には何が必要かな?

子どもたちの育ち

劇の物語を考えていくにあたって、最初は絵本の文章をいくつか組み合わせていっていたが、少しずつ発想力も加わり、「ここにこんなセリフ入れてみるのはどう?」と新しいアイデアがたくさん出るようになっていった。考え進めていくと、「玉手箱が必要だね」と大道具にも目を向けて、使いたいもののアイデアも出てくるようになっていった。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社旗生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

このホットドッグを
作って使いたいね



ここは両面テープで止める？
普通のテープで止めてみる？

この大きさでいい？



子どもたちの育ち

劇に必要なものは、絵本を元に実際にイラストを描いてみんなイメージを共有していった。子ども達から「新聞紙がほしい」「ここにキラキラテープを貼ってみたい」とさまざまな素材からイメージに合うものを選び出して作っていった。子ども達の中でも意見が食い違うこともあったが、相談を繰り返し、みんな納得するものを作り合っていた。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社旗生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

次のセリフは…



どのくらいの声の
大きさがいいかな？

舞台でおうちの人達に
見てもらったね！



子どもたちの育ち

必要な物が揃っていき、いよいよ役を演じる練習を始めていった。自分たちが考えたセリフであったため、すぐにセリフ覚え、役になりきる姿が見られた。保育士がどう動きを付けて表現するのが伝わりやすいかを問いかけると、「こういう動きがいいと思う！」と全身を使って表現する様子が見られた。本番の大きなステージでは緊張した姿を見せながらも、自分たちの作った物語を観てもらったことを嬉しそうにしていた。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社旗生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

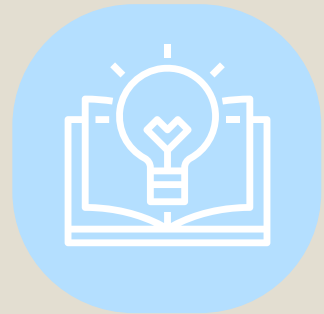
全体の振り返り

絵本カタリストの資格を取った保育士から絵本を使った活動が増えたため、絵本読み込み、物語の世界に入り込んだり、様々な絵本の楽しみ方を経験してきた。そして、今回の物語作りにあたっては、「この絵本はどう？」「このセリフを入れたら面白いんじゃないか」などと予想以上に積極的にアイデアを出す姿が見られた。様々な絵本を知っているからこそ、よりアイデアが出てきているようだった。そして、劇として作り上げていく中でも、「ももたろうのハチマキには桃が書いてあったからつけたい」と絵本の内容から衣装や大道具づくりにも発展させていく姿もあり、絵本の世界を表現する楽しさも感じていた。自分達で考えた物語、衣装、大道具を用いて、子ども達が楽しみながら演じることに最終的に辿り着くことが出来た。

東京すくわくプログラム
高円寺りとりるぱんぷきんず

令和7年度
テーマ「食育 ポテトチップス作り」

テーマ 「食育 ポテトチップス作り」



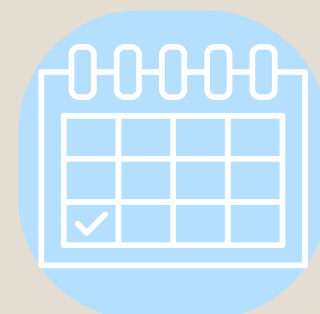
設定理由

「じゃがいも」「にんじん」など名称を知っている野菜の中に、さまざまな品種があるということを知らせていきたいと思いがあり、ポテトチップス作りを題材に活動を広げていきました。



対象クラス

3～5歳児



スケジュール

- 子ども達がクッキングで作りたいものの聞き取り
- どのじゃがいもで作るのかの決定
- じゃがいもの買い出し
- クッキング



準備物

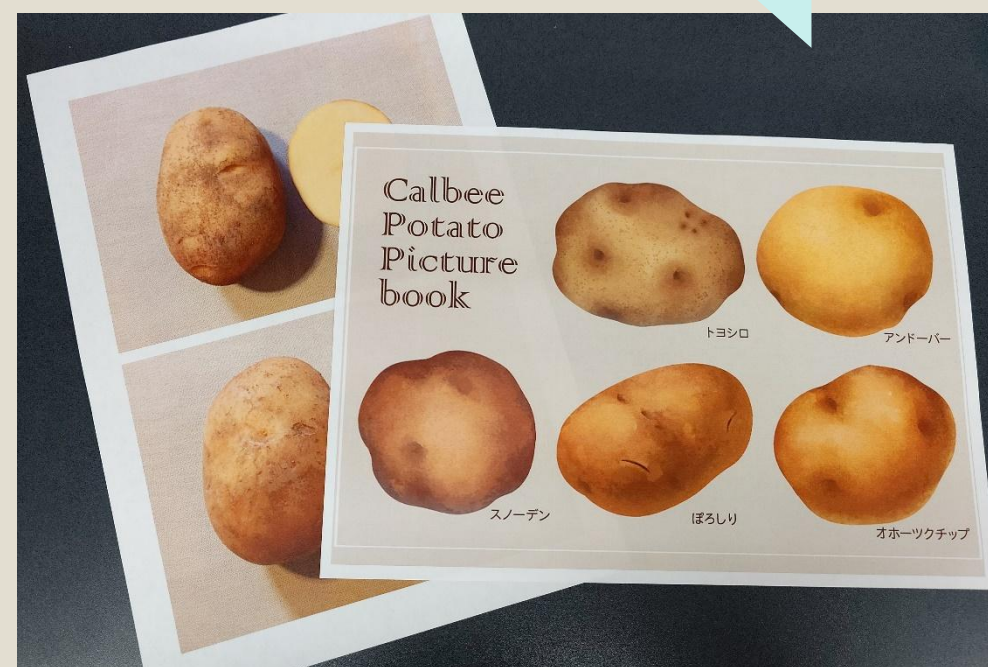
品種の紹介のための写真
プロジェクター

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

これぜんぶ
じゃがいもなの？



T: カルビーという
ポテトチップスを作っている会社の
じゃがいももあるんだよ！



カルビーって聞いたことある！
どんな味のじゃがいもなんだろう！

子どもたちの育ち

子ども達からポテトチップスを作りたいとの声が上がったため、じゃがいもの品種を紹介し、どのじゃがいもで作るのかを子ども達と相談した。じゃがいもによって味や揚げた時の色が異なることを知り、どんなポテトチップスにしたいのかを考え、多数決でカルビー株式会社が開発した「ぽろしり」が選ばれた。

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

じゃがいもはあるけど
名前が違うね…



T: じゃがいもを作っている
カルビーの会社は
北海道にあるみたい！
ここに住所が書いてあるね！



住所って年賀状に
書いてあった！

子どもたちの育ち

数ある中から子ども達が選んだ「ぽろしり」という品種は店舗での取り扱いがほとんどないものであったが、子ども達とスーパーに行き、「ぽろしり」があるかどうか、また、どのような品種が置いてあるのかを確かめに出かけた。「ぽろしり」は見つからず、子ども達とどうするかを相談したところ、ホームページに住所を見つけ、年賀状を通して住所で郵便物が届くという経験をしていたことで、手紙を書くのはどうかという意見が出たため、「ぽろしり」を開発したカルビーポテト株式会社に手紙を書いてみることにした。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

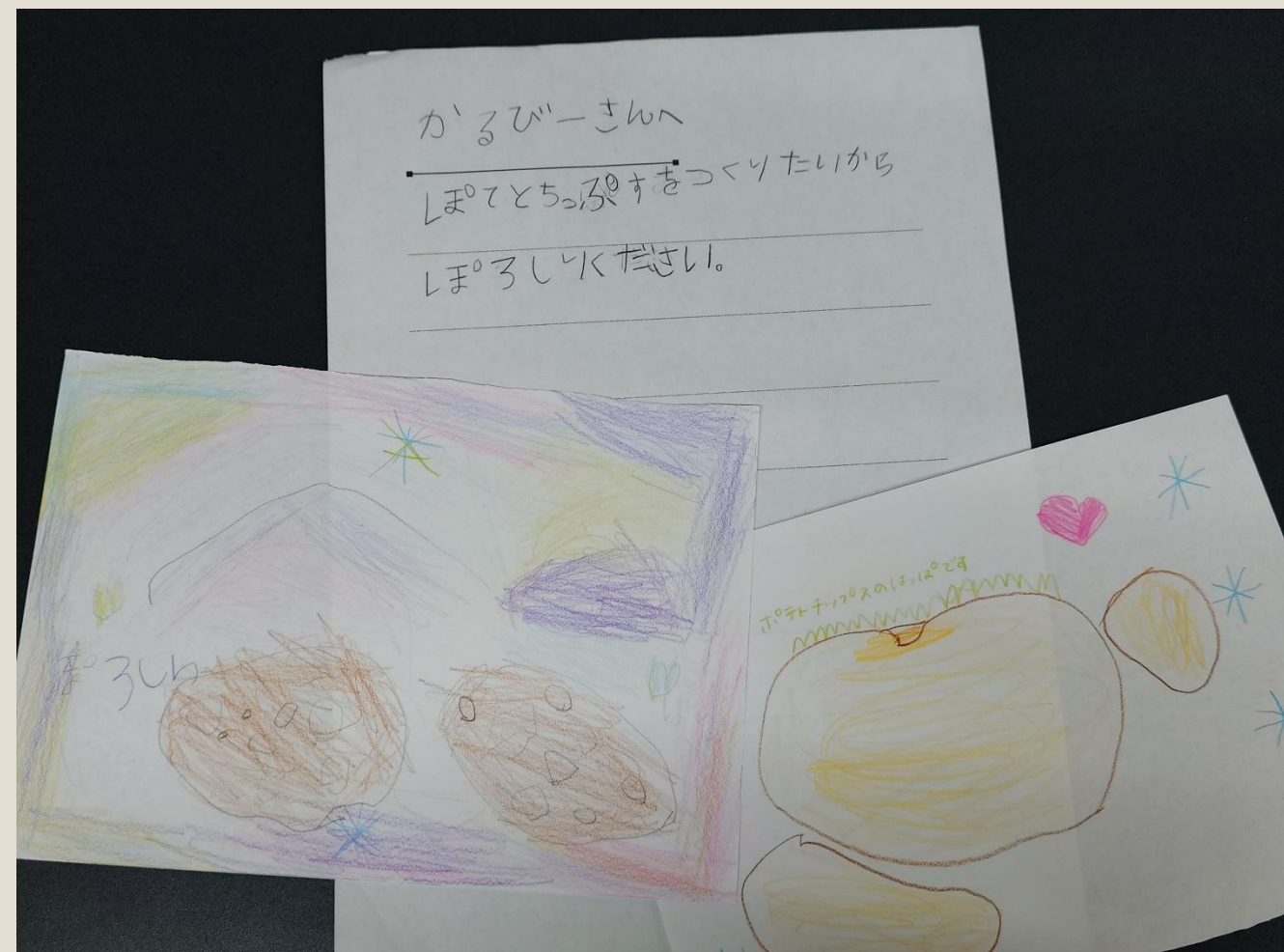
言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり



なんて書いたら
ぽろしりもらえるかな…?



無事に届きますように！



子どもたちの育ち

カルビーポテト株式会社に宛てて5歳児は手紙を書き、3～4歳児が「ぽろしり」の絵を描いた。じゃがいものイメージを描いたり、作りたいポテトチップスの絵を描いたり、手紙を書く目的を理解して描き進めることが出来ていた。まとめたものを全員でポスト投函に行くと、「ちゃんと届くといいな！」と自分達の声がカルビーに届くことを楽しみにしている様子うかがえた。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり



小さな声でお話しようね！

子どもたちの育ち

カルビーポテト株式会社から小売店を介しての販売が中心であるため直接売ることが出来ない代わりに、近隣のスーパーに在庫がある可能性があるとの返事もらった。会社を取り扱いのある店舗を教えてくれたことを伝えると「カルビーさん優しいね」と感謝をする姿が見られた。たくさん歩き電車に乗って買いに出かけたが、約束事を守り周囲に配慮して向かうことが出来ていた。店頭で並ぶじゃがいもの中から「ぽろしり」と書かれている文字を見つけ、「あった！」と嬉しそうに指をさしていた。

あった！
ぽろしりって書いてある！



健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社会生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

ポテトチップスの形になってる！

ぽろしりって
こんな味なんだね！
できたてっておいしい！



子どもたちの育ち

購入したぽろしりを使ってポテトチップス作りをおこなった。皮むき、スライス、洗う、水分を取る、揚げるというさまざまな工程に手分けをして取り組んだ。調理をしていく中で、じゃがいもの色や形に目を向け、気付いたことを共有する姿が見られた。ポテトチップスが完成すると味つけをする前に食べてみたいとの声があったため味見をしてみると「甘い」「パリパリしている」と素材の味を感じることが出来ていたようであった。

全体の振り返り

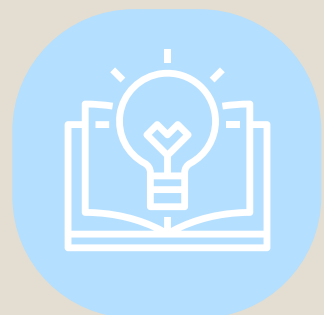
ポテトチップス作りをするにあたり、“じゃがいも”という野菜にも品種があることや品種によって味や形が違うことを知らせた。初めはポテトチップスのことのみ興味がある様子がかがえたが、自分達で選んだ品種でクッキングが出来ることを知ってからは、じゃがいもに興味を持って積極的に話を聞く姿が見られた。なかなか手に入れられない品種を選んだことを子ども達も理解していたため、作戦会議と称してプロジェクターを使って子ども達の気になったことを検索する時間を作った。「ぽろしりはどこで育っているのか」「カルビーの会社がどこにあるのか」など子どもが疑問に思ったことをその場で一緒に解決をしたことで、手紙を出してみるという次の一手を子ども達発信で決めることが出来た。手に入れるのに時間がかかったからこそ、実際に店頭で見つけた時や、一口食べた時の喜びをより感じる事が出来ていたように思う。また、こだわりを持って選んだじゃがいもだったこともあり、「甘い」「きれいな色」「形がかわいい」など「おいしい」以外の感想がよく聞こえてきたことも印象的であった。

この活動を通して、野菜に品種があることはもちろん、野菜を育てている人やそれを売っている人の存在にも目を向ける機会となった。

東京すくわくプログラム
高円寺りとりぱんぷきんず

令和7年度
身体づくり

テーマ 身体づくり



設定理由

身体づくりを通して子ども達に自分で考えたことを伝え合い、一緒にどうなるのか探求する気持ちを持てるようになってほしいという思いからこのテーマに決めました。この活動を通して相手の考えを受け入れて話を進めていく力やチャレンジする気持ちを大切にしていき、自己肯定感を高めていきます。



対象クラス

5歳児



準備物

運動用具・制作に必要な物



スケジュール

- ・一緒に身体を動かす中で自分の身体を知る
- ・ボール作りをしてボールのことで知り、仲良くなる
- ・チームごとに的を作る中で自分の意見を伝えたり、折り合いをつけて進めていく
- ・どのように投げれば的に当たるのか考え、実践してみる
- ・サークルタイムにより、自分の気持ち・感情を伝える

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識の芽生え

社旗生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命の尊重

量・図形・文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

どんなことするのかな？



T:出来なくてもチャレンジする気持ちが大事！



四角いボールは投げやすいのかな？



色々な方法を試してみよう！
前のお友達が終わったら
次は自分の番だ。

子どもたちの育ち

いつもと違う雰囲気の中、子ども達も何が始まるんだろう？とワクワクした気持ちでいた。ボールのことを良く知り、ボールを使った運動を通して少し難しいことにも挑戦する姿が見られた。

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識の芽生え

社旗生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命の尊重

量・図形・文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

自分だけのボール
作ってみよう！



T: 「的に当てるには
どうすればいいのか、考えて
やってみよう」



的にあてどんな風に作る？
「僕は最強王にしたい！」
「私はポケモン描きたい！」
「じゃあどうすればいいのか？」



「色々な方法を試してみよう！
前のお友達が終わったら
次は自分の番だ。」

子どもたちの育ち

的にあて作りでは、グループで話し合う中で「じゃあどうしよっか？」とみんなの意見もまとめてくれるリーダーシップをとる子どもがいた。「みんなそれぞれ描きたいことがあるならピザみたいな形にするのはどうかな？」と提案し、全員納得出来たことで協同性をもった的にあてを作りあげる姿が見られた。

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

手を投げる方向に向けて
やってみるのをみんなで
やってみよう！」



遠くに飛ばすにはどうやっ
て投げればいいかな？



T：次はどんな投げ方で投げる？



あと1回カゴに入ったら勝
てるよ！頑張って～。

子どもたちの育ち

「遠くに飛ばす為には勢いが必要だけど勢いだけだと下にいってしまう。じゃあどうすれば・・・」みんなで考えて何度もボールを投げて考えていた。どの投げ方もお互いに否定することなく、「じゃあそれで一回投げてみよう！」と友達の意見も肯定的に捉える姿が見られた。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性と規範意識
の芽生え

社旗生活との
関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・
生命の尊重

量・図形・文字等
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性と表現

全体の振り返り

はじめの約束で「ちょっと難しいことにも諦めないで挑戦する気持ちを大切にしていきましょう」と三輪選手から話があり、子ども達もできないから諦めるのではなく、どうすれば出来るようになるのか考える姿が見られるようになった。

的作りでは、話し合いの中でお互いの意見を伝え合い、グループの一人がみんなの意見をまとめてくれる子どももいた。保育士が介入せずに話が進み、折り合いがついたことが初めてだったので子ども達を見守ることの大切さも感じた。

どうやったら的にボールが当たるのかグループで話し合う中で「投げる前に顔を投げる方向に向ける」「いつもより上にボールをめがけて当てる」など自分なりに考えた方法を伝え、実践し、どうだったか意見も伝える場面を多く取り入れていた。人の話を聞くことで大切なことにも気づき、また、相手の意見を肯定的に受け入れる姿が見られた。

三輪選手にも意見をすべて肯定的に受け止めてもらえたことで発言する時の自信にも繋がり、子ども達もお互いの意見を受け入れられるようになっていた。また、どうすれば的に当たるか、探求心を持って活動に臨む姿が見られ、子ども達の成長に繋がる活動になった。